

SDGsをコンテンツにした英語授業実践 —グループ活動を通じた英語リーディングと表現活動—

長 木 愛^{*1}

要 約

本稿は2021年度に筆者が行った大学英語授業の実践をまとめたものである。この授業の特徴は、Sustainable Development Goals (SDGs) をコンテンツにしていることとグループ活動を取り入れていることである。この授業の第一の目的は、学生が英語学習を通して、SDGsや社会課題について知り、学生同士の意見交換を通してその理解を深め、SDGsを「自分事」として捉え、自分の考えや意見を発信することである。第二に、英語が苦手な学生が主体的に授業に取り組めることである。この授業は、テキストを用いたSDGsを知り理解を深めるためのグループ活動と、スピーチやSDGsプロジェクト発表を含む表現活動から構成されている。本稿では授業で行った活動内容について説明し、学生のコメントをもとに彼らのSDGsへの理解と授業に対する態度について考察を行った。

1. 緒言

2015年9月第70回国連総会で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。そのアジェンダの「人間、地球及び繁栄のための行動計画」として掲げられたのが「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」であり、これは持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標である。そして2019年国連総会においてSDGs達成のための「行動の10年」が宣言され、2020年1月SDGs達成のための「行動の10年 (Decade of Action)」がスタートした¹⁾。横井と横野²⁾は「世界規模の課題を自分事として感じられる今、まさに『新しい日常 (ニューノーマル)』へ向かって一人一人の行動変容が求められています」と示唆している。また日本政府は2020年に発表した「SDGsアクションプラン2020」³⁾の中で、「ビジネスとイノベーション～SDGsと連動する「Society5.0」の推進～」、「SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり」、「SDGsを担い手としての次世代・女性のエンパワーメント」を3つの大きな柱とした「日本の

SDGsモデル」の展開を加速化していくと述べている。さらに、横井と横野²⁾は「企業は経営にSDGsを本業として取り込みながら、自社との関係しようなSDGsアクションプランの施策を見出し、事業戦略を組み立てていくことがより求められてきます」と言及している。つまり、SDGs達成の担い手となる大学生は、卒業後どのような職業に就くにしても、SDGsを理解しSDGsの視点をもって社会に貢献していくことが求められる。また伊東⁴⁾は「外国語・英語 (目標言語) でSDGs (内容) をジブンゴト化するプロセスを教師が創り出すことができれば、英語教育が大きな意味・意義を持つことができる。(中略) CLIL^{†1)}の枠組みを用いてSDGsをジブンゴト化するアプローチは、日本人 (日本語話者) 学習者の脱中心化をはかり、客観的・批判的な思考力を身につけること、自律的行動を促すことにつながる可能性を秘めている」と示唆している。

筆者は英語教育の中で、学生の英語の運用能力を向上させるとともに、世界や自分の地域で起きている社会課題を理解し、グローバルな視点を持ち行動する人材を育成することができるのではないかと考

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 総合教育センター
(連絡先) 長木愛 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学
E-mail: ainagaki@mw.kawasaki-m.ac.jp

えた。そこで授業にSDGsを英語教育のコンテンツとして取り入れることにした。しかしながら、母語でSDGsを理解していない、あるいはSDGsや社会課題に興味・関心をもっていない学生に、外国語でSDGsの内容を理解させていくのは困難であるので、講義形式ではなくグループ学習の手法を用い、学生同士が助け合い、意見を出し合いながら、英語運用能力を高めながらSDGs(内容)の理解を深めることができるように授業を構成することにした。本稿では、筆者が2021年度に行ったグループ活動とコンテンツとしてSDGsを導入した大学における英語授業実践について報告する。なお報告内容は、春学期はオンラインによるvideo on demand(ビデオ・オン・デマンド)形式のオンライン授業がほとんどでグループ活動ができなかったため、秋学期に行った授業と春学期の表現活動の一部とする。

2. 方法

2.1 基礎英語Ⅰ・Ⅱの概要と受講者

筆者が所属する川崎医療福祉大学では、学生は1年次の春学期に基礎英語Ⅰ(2単位, 15時間)、秋学期に基礎英語Ⅱ(2単位, 15時間)を、基礎教育科目の国際コミュニケーション分野の必修科目として履修する。基礎英語Ⅰ・Ⅱは複数の教員で担当されており、1年生は4月初めに英語のプレースメントテストがあり、その結果をもとに学部ごとにクラス分けが行われる。学生は指定されたクラスで春学期・秋学期にそれぞれ基礎英語Ⅰ・Ⅱを受講するため、クラスメンバーは1年を通して同じである。2021年度に筆者が担当したクラスは、医療福祉マネジメント学部の1年生(109名)のうち医療福祉経営学科、医療情報学科、医療秘書学科、医療福祉デザイン学科に所属する学生数名ずつで構成されたAクラス(28名)とBクラス(29名)であった。筆者の印象としては、英語に苦手意識をもっているが、英語を理解できるようになりたいと思い、真面目に授業に取り組む学生が多いという評価であった。

2.2 使用テキスト

使用テキストは、南雲堂の「地球市民として生き

る：英語で学ぶSDGs実践入門」である⁵⁾。本テキストは全14章から構成され、章ごとにSDGsに関連したテーマが設定されている。その中からSDGs全体に関連するテーマ(グローバルな視点, パートナーシップ)、人に関連するテーマ(貧困, 飢餓, ジェンダー, 難民)、環境に関連するテーマ(気候変動, プラスチックごみ, 買い物)を取りあげた。春学期・秋学期で取り扱ったテーマの内訳は、表1に示す。章ごとに、テーマに関する身近な問題について考えさせる質問を含むIntroduction、その章で使用される重要な語彙とその定義が挙げられたVocabulary List、世界や日本で起こっている社会課題が500語程度の中級学習者レベルの英文で解説されているReading Passage、自分の生活と社会課題がどのように関わり、その解決のために自分に何ができるかを考え発信することを促すAction Sheet等で構成されている。

2.3 授業のデザイン

春学期・秋学期各全15回の授業のうち、第1~11回をSDGs理解編、第12~15回をSDGs発信編とした。前半11回のSDGs理解編では、章ごとのテーマに関する内容理解①~③と表現活動④で授業を構成し、学生がSDGsに関連した社会課題についての知識を得る時間とした。後半4回のSDGs発信編では、春学期は表現活動⑤朝食とSDGsに関するスピーチを、秋学期は表現活動⑥SDGsプロジェクトを、学生が準備したり発表したりする時間に充てた(表2)。

毎授業終了時に、学生に「ふりかえり」を書かせ、オンライン上(春学期Moodle, 秋学期WebClass)で提出させた。ふりかえりから学生のSDGsや英語についての理解を確認し、授業の改善を行った。またふりかえりの中で、授業中の発表回数を自己申告してもらった。この発表回数を授業態度として評価することを伝え、学生の意欲につながるように配慮した。

主な活動形式として、講義形式ではなくグループ活動を取り入れた。各グループは4~5人で構成され、学期中にメンバーの変更はしなかった。

このような授業構成にしたねらいは、次の3点で

表1 春・秋学期に取り扱ったテーマ

	春学期	秋学期
SDGs全体に関連するテーマ	グローバルな視点	パートナーシップ
人に関連するテーマ	貧困, 飢餓	ジェンダー, 難民
環境に関連するテーマ	気候変動	プラスチックごみ, 買い物

表2 活動内容とその形態

	授業回数	活動内容		活動形態・資料等
SDGs 理解編	前半 11 回	内容理解①	SDGs ・テーマ：動画による背景知識の導入	動画
		内容理解②	Vocabulary List：重要な語彙，その定義の確認	テキスト VOD（春学期）
		内容理解③	Reading Passage：英文の精読	グループ活動
		表現活動④	ディスカッション：各章 Introduction の質問を使った QA	（秋学期）
SDGs 発信編	後半 4 回 （春学期）	表現活動⑤	朝食と SDGs に関するスピーチ	個別活動 調べ学習
	後半 4 回 （秋学期）	表現活動⑥	SDGs プロジェクト	グループ活動

ある。

- (1)SDGs 理解編を通して，学生は SDGs や社会課題について知り，他の学生と意見交換することでその理解を深めることができる
- (2)SDGs 発信編を通して，学生は SDGs を「自分事」として捉え，理解したことをどのように行動に結びつけるかを体験することができる
- (3)グループ学習をすることで，英語について学生同士で教え合う場が生まれ，英語を不得意だと思っている学生も主体的に英語学習に取り組むことができる

本章では，これらの授業内容について詳しく説明する。

2.3.1 内容理解① SDGs・テーマ：動画による背景知識の導入

SDGs 自体に馴染みがない，各章で取り上げられているテーマや社会課題について聞いたことはあるが詳細はわからないという学生が多かったため，いくつかの章の導入に3～5分程度の動画を視聴させ，テーマについての背景知識を得てもらうことにした。

使用した動画は次の通りである。グローバルな視点と気候変動については，ユニセフとパートナーシップを結ぶ Global Goals の「World's Largest Lesson-Part 1 (Japanese with Subtitles)」を使用した⁶⁾。本動画では自然・人・動物が相互に関わり合っていること，気候変動を含む環境問題や貧困等の社会課題，SDGs の成り立ち等がわかりやすく説明されている。ジェンダーについては，映画『わた

しはスジューム，10歳で離婚』（原題 Ana Nojooombent alasherah wamotalagah）の予告編を使用した⁷⁾。児童婚の風習があるイエメンで10歳の時に結婚させられた少女の実話をもとに作られた映画で，予告編だけでも児童婚，家庭内暴力，児童労働について考えさせられる内容である。難民については，国連の難民支援機関である国連難民高等弁務官事務所（UNHCR: The office of the United Nations High Commissioner for Refugees）が出している「難民とは」「国内避難民とは」を使用した⁸⁾⁹⁾。アニメーションで難民と国内避難民が国や住居を追われる理由とその困難な道のりがわかり易く解説されている。テーマが買い物の章では，Reading Passage の内容にフェアトレードが含まれていたため，フェアトレード・ラベル・ジャパンの「3分で分かるフェアトレード Understand Fairtrade in 3 minutes」を視聴させた¹⁰⁾。日常生活で食べている食べ物がどのように生産され，その一部は貧困や児童労働につながっていることを理解することができる動画である。プラスチックごみについては，富士通株式会社の「【解説】海洋プラスチックごみ問題とは？」を使用した¹¹⁾。プラスチックごみがどのように海に運ばれ，生態系に影響を与えるのかをわかり易く解説している。

2.3.2 内容理解② Vocabulary List：重要な語彙，その定義の確認

筆者は語彙については，繰り返しその語彙に触れることで，正しい発音や意味を理解し，その語を覚

えていくことができると考えている。また、そこで、学生が楽しく繰り返し語彙に触れる機会を設け、語彙を暗記する助けになるように、語彙学習にゲーム的要素を取り入れた¹²⁾。この語彙ゲームは、各章の第一時間目に行った。手順は以下の通りである。

各章で挙げられている重要な語彙10語を B5サイズの紙にマジックで書く(以下、単語カード)。各グループ4~5人のため、一人2~3語書くことになる。次にグループ内で単語カードを並べ、担当教員が読み上げた英単語をカルタのようにとる。担当教員の読み上げは、英単語の発音→日本語→英単語の定義(英語)へと難しくしていく。次にグループ対抗に切り替え、担当教員が日本語や英単語の定義を読み上げる。グループ内で協力し、素早く該当の単語カードを頭上に掲げ、その単語を発音する。他のグループよりも早く、正確にできたグループにポイントが入る。これを数回繰り返す。グループ対抗の語彙ゲームで獲得したポイントは、毎授業終了時に行うふりかえりの中で、発表回数のポイントとして自己申告させた。

2.3.3 内容理解③ Reading Passage : 英文の精読

中級学習者レベルの約500語の英文を読むには時間がかかる。その要因として、わからない単語がたくさんありほとんどの単語の意味を調べなければならぬこと、英文の構造をつかむことができないことにある。その結果、せっかく予習始めても途中で諦めてしまうことがある。

各章のReading Passageは5段落からなり、各段落は100~200語で構成されている。学生が授業に臨むにあたり、Reading Passageの語彙を調べたり英文の解釈をしたりすることを前提とした。さらにグループ内で各段落の担当者を決めさせ、担当者は担当する段落について語彙、文法事項、英文解釈の

説明ができるように念入りに予習をしてくるように求めた。担当段落を予習するにあたり、(1)担当教員が準備した予習プリントに書かれた記号を参考にし、スラッシュで区切られた語句のまとまりごとに日本語訳をすること、(2)下線が引かれている文については特に文構造や文法的な説明ができるようにしておくこと、(3)予習段階で解釈ができなかった英文は、授業中のグループ活動の中で相談するために明確にしておくことの3点を指示した(図1)。

2.3.4 表現活動④ ディスカッション : 各章 Introductionの質問を使ったQA

テキスト⁵⁾のIntroductionにある質問を使ってディスカッションをする時間を設けた。英語で会話することに慣れていない学生が多いので、事前準備の時間をしっかり取ることにした。手順としては、各章の第一回目の授業で、学生はIntroductionの質問について考える。その質問は「学生服を着ることについてどう思うか」「難民という言葉に対してどのようなイメージがあるか」のようなテーマに関連して、かつ学生が答えやすい内容になっている。学生には自分の意見を1~2文程度の英文にまとめ、それをオンライン上で提出させ、担当教員が次の講義までに英作文の添削をし、オンライン上で返却する(図2)。第二回目の授業で、学生は添削された英文をオンライン上で確認し暗記する。その暗記した英文をもとに、グループメンバーとペアになりディスカッションをする。グループ内でペアを入れ替えながら、ディスカッションを繰り返す。さらに、他のグループのメンバー2名とペアになり、ディスカッションをする。ディスカッションのまとめとして、クラスから数名のボランティアを募り、クラス全員の前で担当教員が問いを投げかけ、学生に答えてもらうデモンストレーションを行う。

SDGs: "no one will be left behind." In a pandemic, the only way to control the spread of a disease and (ultimately) overcome it is to create **partnerships**. After all, even if one country were to be successful in stopping the spread of the virus, that achievement would be meaningless if its neighboring countries were not able to do the same. Our world is so interconnected that global health and wellbeing cannot (possibly) be sustained if countries or people act (alone). Instead, we

図1 筆者が作成したヒントの記号や下線が引かれた予習プリント



図2 オンライン上 (WebClass) でディスカッションを投稿

2.3.5 表現活動⑤ 朝食とSDGsに関するスピーチ (春学期)

春学期は表1で示したように、テーマの1つとして「貧困」「飢餓」を取り上げた。「貧困」「飢餓」に関する Reading Passage では、「食」がトピックとしてあげられているので、「食」について調べ、表現活動をさせることにした。まずSDGsと自分自身の生活を結びつけて考えさせるために、テキスト⁵⁾の Chapter 6の Action Worksheet (p.109)を使用し、1週間フードロス調べさせ、自分が出した食料廃棄量を可視化させた。次に、自分の朝食を写真に撮り、その原材料をリスト化し、その朝食がSDGsや社会課題にどのように関連しているかについて調べさせた。スピーチ発表までの手順は以下の通りである。

Step 1: 朝食の写真を撮り、SDGs ホイール^{†3)}の中に入れる (図3)

Step 2: 朝食に使われている原材料をリスト化する

Step 3: その原材料の中から2つ選び、それらがどこの国または地域から来ているのか、誰によって生産されているかを調べる

Step 4: 選んだ原材料に関連する社会課題をあげ、その社会課題がどのSDGsに関連しているのかを考え、100字程度の日本語でまとめる。またSDGsホイールに入れた写真とSDGsの目標を線で結ぶ (図3)

Step 5: Step1~4までの朝食調べと、事前に行った1週間のフードロス調べも含め、気がつい



図3 朝食とSDGsの関係性を示したSDGsホイール

たことや感じたことを日本語で書く^{†4)}

Step 6: Step4~5で書いた内容を英文にし、スピーチ原稿を作成する

Step 7: 担当教員からのフィードバックを受けて、原稿を書き直す

Step 8: スピーチを録音して、提出する

2.3.6 表現活動⑥ SDGsプロジェクト (秋学期)

春学期の表現活動は個人でのスピーチであったが、秋学期は学生同士でSDGsについて意見交換したり、英語表現について協力したりできるように、グループでSDGsプロジェクトを立案し発表する形

Create and Share Your Own SDGs Project
Team members: _____ No.2
Our Project Name: _____

Step 3 Discuss in the group and write the answers to the following questions in Japanese.

How does your plan relate to SDGs? (Related SDG Number)	SDGsにどう関連していますか。
What is the goal of your plan?	あなたの計画の目標はなんですか。
Why do you think your project and its goal are important?	なぜこのプロジェクトを目標が大切だと思いますか。
What specific actions will you need to take to complete your plan and achieve your goal? Include a timeline for each action.	計画を完了したり目的を達成したりするために、具体的にどんなアクションをしますか。
With whom will you work on your project?	誰と協力してこのプロジェクトをしますか。
What will the world or society be, if it's achieved?	もしプロジェクトの目標が達成されたら、世界や社会はどのように変わりますか。

図4 SDGsプロジェクトワークシート テキスト⁵⁾
(p.117) 筆者一部改変

式を取ることにした。プロジェクト発表までの手順は以下の通りである。

- Step 1: 関心があるSDGsや社会課題について、グループ内でディスカッションをする
- Step 2: ディスカッションをした中から、グループ内で最も関心が高い社会課題の一つを選び、その解決プロジェクト案を考える
- Step 3: 次の6点についてグループで話し合い、プロジェクト案を日本語で作成する(図4)
①SDGsのどの目標に関連するか、②プロジェクトの目的、③このプロジェクトが大切な理由、④具体的なアクション、⑤誰と協力するか、⑥このプロジェクトが達成されたら世界・社会はどのように変化するか
- Step 4: Step3で作成したプロジェクト案を英語に翻訳し、WebClass上で提出する
- Step 5: 担当教員から英文に対するフィードバックを受けたあと、グループ内で英文について再検討する
- Step 6: パワーポイントでビジュアル資料を作る
- Step 7: スピーチ原稿を作る
- Step 8: プレゼンテーションの練習をする。イント

ネーションや英単語の読み方も合わせて確認する

Step 9: グループごとに、SDGsプロジェクトの発表をする

3. 結果

3.1 授業のデザイン

グループ活動については、年度当初はすべての活動にグループ活動を取り入れる予定であったが、2021年度春学期の第5回目以降の授業と秋学期の最終回が、新型コロナウイルス感染症対策のためVOD形式のオンライン授業になった。結果として、グループ学習を取り入れたのは、秋学期の内容理解①～③と表現活動④、及び表現活動⑥においてのみになった。秋学期の最終回の授業はオンライン授業になったため、対面でのグループによるプロジェクト発表ではなく、パワーポイント資料に音声吹き込んだかたちでの発表となった。

3.2 内容理解① SDGs・テーマ：動画による背景知識の導入

動画の視聴後のふりかえりから、学生は背景知識を得ただけではなく、その社会課題について考えたり、自分が置かれている環境と比較したりしたことが確認された。例えば、難民や国内避難民については、「初めて難民や国内避難民について理解した」「難民は国際法で保護されるが、国内避難民は政府に頼るしかないことがわかった」「現在私が送っている当り前の状況や生活とは全く違い、日々、命の危機を感じながら生きていることがよく分かった」「私たちのような若い世代の一人一人が人権についてもっと向き合う必要がある」という内容のコメントが見られた。

3.3 内容理解② Vocabulary List: 重要な語彙、その定義の確認

多くの学生のふりかえりの中で「語彙を覚えることが苦手であるが、多くの語彙を覚えなければならぬ」と感じているとわかった。授業の中で語彙ゲームをすることで、楽しみながら繰り返し語彙に触れるだけではなく、発音がわからない時はグループ内で確認することができていた。またこの語彙ゲームについて「グループ内の会話が弾んだ」「グループの仲が良くなった」という肯定的なものも多く、グループ活動をスムーズに進めるためのチームビルディングとして効果があった。

3.4 内容理解③ Reading Passage: 英文の精読

春学期に行ったクラスオリエンテーションを除く初めの3回の対面授業において、予習が間に合っ

いない、または不十分な学生が見られた。また、ふりかえりの中でも「時間がなくて十分に予習ができなかった」「英文が解釈できない」という感想があった。しかしながら、5月下旬新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための緊急事態措置下に入り、春学期の基礎英語Ⅰは第5回目(5/26)の授業以降はオンライン授業に切り替わったため、予習が不十分という状況を見える形で改善することができなかった。

秋学期から対面授業が再開されたため、学生が予習をしていないところはただ聞くだけにならないように、グループ活動を積極的に活用した。この Reading Passage のグループ活動を始めたときは、自分が担当する段落しか予習をしていない学生が見られた。しかしグループ活動が進むにしたがって、「自分の担当部分以外の段落も予習をしていないと、グループの人が説明をしてくれてもしっかり理解することができない」「グループ活動の時間内に話し合いを終わらせることができない」と感じる学生が増え、すべての段落を予習する学生が増えた。またグループ活動を始めた当初、Google 翻訳等の翻訳機能を使い、スラッシュごとではなく1文ずつ日本語訳をしてグループ内で発表する学生がいた。担当教員が文構造を考えながらスラッシュごとに説明をするように促したこともあるが、自分以外のグループメンバーの予習の仕方や発表方法を見たことで、予習方法を理解し、自分が担当する段落に責任を持って説明ができるよう準備をしてくるようになった。また、予習しても解釈できなかった部分は、グループ内で話し合い解決するようになった。グループ内で考えてもわからないところは、担当教員によるクラス全体での確認の中で解決をしていた。グループ活動が進むにつれて、ふりかえりの中で「予習をしっかりするようになった」「予習を頑張ったので、グループの人にしっかり説明ができた」「英文の解釈が以前よりできるようになった」「グループの人に質問しやすくなった」等の前向きなコメントが多く見られるようになった。

またグループ活動の問題として、Reading Passage についてのグループ活動の当日に欠席をする学生がおり、その段落についてグループ学習の進度が遅くなることがあった。その解決方法として、担当教員が代替としてグループに入りその段落を担当した。

3.5 表現活動④ ディスカッション：各章 Introduction の質問を使った QA

ディスカッションにおいては、つまりながらも何も見ずに相手に伝えている姿が見られた。ふりかえりには英語で話をするのが楽しかったという感想が

見られた。自分の考えをグループやクラスで何度も発表することで、自信をもって英語で話ができたといい意見もあった。

3.6 表現活動⑤ 朝食と SDGs に関するスピーチ (春学期)

学生のふりかえりの中で「バナナを生産している労働環境が思っていたより酷くて驚いた」「調べる前は大きく自分には関係ないと思っていたが、毎日食べているものの中かなり人や環境に悪影響を与えているものがあって驚いた」という感想が見られた。自分の生活と SDGs がどのように関連しているのかをしっかりと調べることができた学生が多かった。一方、SDGs の理解は深まりつつあるものの、表現する内容が複雑になるにつれて英語で表現することに難しさを感じている学生も多かった。

スピーチ発表時は、VOD 形式のオンライン授業であったため、スピーチを録音して提出する形になり、お互いのスピーチを聞き合うことができなかった。またふりかえりの中で、繰り返し視聴できるオンデマンド授業の利点を認めつつも、「クラスメイトの意見を聞けないのが残念だ」と感じている学生も多かった。

3.7 表現活動⑥ SDGs プロジェクト(秋学期)

学生はグループディスカッションを通して、各メンバーの経験や SDGs や社会課題についてどのような考えを持っているかを聞くことができたり、自分では思いつかないアイデアに驚いたりしつつ、SDGs への理解を深めた。また、担当教員からの英文に対するフィードバックを受けたあと、英文を修正する際に英語が得意な学生が苦手な学生をサポートしたり、パワーポイント作成やデザインを得意とする学生がビジュアル資料作りをリードしたりする姿が見られた。学生のふりかえりから、グループで協力することで多くのアイデアを取り入れ工夫できる喜びや協力する楽しさを感じたことがわかった。

秋学期はプロジェクトの発表日である第15回目の授業が、再びオンラインになったため、対面での発表することができなかった。そこで、提出したパワーポイントをビデオに変換し、クラス内のみで他のグループの発表を見ることができるようにした。

4. 考察

学習が進むにつれて「SDGs を学んで今後自分に何ができるかをよく考えて行動したい」というコメントがよく見られるようになり、本講義を通して学生が SDGs や社会課題について理解し、「自分事」として捉えることができるようになったと考えられる。また、グループ活動を通して、学生が積極的に

予習に取り組んだり、英語で自分の意見を言うディスカッションを楽しんだり、主体的にSDGsプロジェクト立案と発表準備をする姿が見られた。

授業で取り扱うコンテンツに対する関心が高まることで、英語の学習に対する意欲も高まるのではないかと考える。さらにグループ活動は、学生が英語で表現することを楽しいと感じたり、英語学習を続けられれば英語を理解できるようになると意識を変えたりすることに對し、効果的であると思われる。そして、SDGsというコンテンツ、グループ活動、授業の方法の組み合わせ方によって、学生のSDGsの理解と英語学習への意欲をあげられると考える。

以上から、本講義で目的としていた学生がSDGsを理解し自分事として捉え、自分の意見を表現することができること、英語に苦手意識がある学生も主体的に授業に参加することができることは、ある程度達成できたと考える。

しかしながら、本講義では学生のふりかえりから、彼らの英語の学習状況やSDGsの理解度を推しはかるにとどまった。よって、学生の英語の学習に対する情意面の変化、予習への取組時間や予習の取組

み方、達成感、英語技能の向上等について、明らかにしているとは言えない。

また、グループ活動において、大場¹²⁾は「単に課題をペアやグループに与えて学習を促すだけでは、協同学習の質に差が出てしまう」と指摘している。本講義で行ったグループ活動は、学生のふりかえりから一定の効果を得ることができたと考えるものの、ふりかえりだけでは、学生のグループ活動がどの程度効果的で、グループ間で学習の質の差があったかを測ることは困難である。

そこで現在のふりかえりに加え、アンケートや到達度テストを用いて、学習者の変化を数量として計り、その分析を行うことが必要と思われる。アンケートはCLILの4つの指標「内容」「言語」「思考」「協学」を基盤として、英語の学習状況やSDGsの理解度とグループ活動の効果についてとり、授業前と授業後のアンケート結果を比較することが方法として考えられる。その結果の分析により、授業の内容やグループ活動の内容を改善することで、学生のより一層のSDGsの理解と英語学習への意欲を高めることにつながると考える。

注

- †1) CLIL (Content and Language Integrated Learning) の略称。教科科目やテーマの内容の学習と外国語の学習を組み合わせた学習(指導)の総称で、日本では「内容言語統合型学習」と呼ばれている。(日本CLIL教育学会ホームページより抜粋)
- †2) 各章の終了時に語彙テストを行っている。
- †3) SDGsの17目標のアイコンでできた輪のこと。
- †4) Step1~5の朝食の原材料を調べてSDGsと関連を調べるワークは、2021年に地球憲章ESDセンターと国連平和大学(The Earth Charter Center for Education for Sustainable Development and University for Peace)で開講されたInternational Professional Development Online Certificate Programme on Education for Sustainable Developmentの講義の中でご教示いただいたものである。

文 献

- 1) 国際連合広報センター：持続可能な開発目標(SDGs)とは。
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/, [2016]. (2022.3.15確認)
- 2) 横井篤文, 横野博史：SDGsとポストコロナー日本の未来を地域から構想し、「地球社会」を共創する一。Monthly report—東瀬戸内をつなぐ経済情報誌—, 43(512), 2-9, 2020
- 3) SDGs推進本部：SDGsアクションプラン2020。
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2020.pdf, 2019. (2022.3.15確認)
- 4) 伊東弥香：SDGsをジブンゴト化する—CLILの枠組みで考える英語教育—。東海大学教育開発研究センター紀要, 3, 15-25, 2018
- 5) 小関一也, ケビンマクマナス：地球市民として生きる—英語で学ぶSDGs実践入門—。南雲堂, 東京, 2020
- 6) Global Goals : World's largest lesson-part 1 (Japanese with subtitles). <https://youtu.be/H0yxJzzIFo8>, 2019. (2022.3.12確認)
- 7) Dubai International Film Festival : 予告編『わたしはヌジューム, 10歳で離婚』(原題 Ana Nojoom bent alasherah wamotalagah). <https://youtu.be/PW-eDmnBOZo>, 2014. (2022.3.12確認)

- 8) UNHCR Japan : 難民とは. https://youtu.be/ZW_NnDi06y8, 2021. (2022.3.12確認)
- 9) UNHCR Japan : 国内避難民とは. https://youtu.be/sFB9LNy_nLE, 2021. (2022.3.12確認)
- 10) フェアトレード・ラベル・ジャパン : 3分で分かるフェアトレード.
<https://youtu.be/2N1AsvOsPlQ>, 2012. (2022.3.12確認)
- 11) 富士通株式会社 : 【解説】 海洋プラスチックごみ問題とは? .
<https://www.youtube.com/watch?v=10EbmdfhguI>, 2018. (2022.3.12確認)
- 12) 大場浩正 : 共同学習に基づく英語コミュニケーション活動が英語学習意欲や態度に及ぼす影響—テキストマイニングによる分析—. 上越教育大学研究紀要, 34, 177-186, 2015

(2022年5月26日受理)

Practice of English Lessons Based on SDGs: English Reading and Production Activities through Group Activities

Ai NAGAKI

(Accepted May 26, 2022)

Key words : SDGs, content based learning, group activity, English reading, project-based learning

Abstract

This paper introduces the English lectures which the author conducted in the 2021 academic year. The features of the lectures are introducing SDGs as learning content and placing importance on group work. One of the purposes is that students will be able to learn SDGs and related social issues, to deepen their understanding of SDGs through discussion and regard SDGs as their own matters, and to express their ideas and opinions regarding SDGs. The other is that students will be proactive in participating in English lessons. This paper describes two constitutive parts of the lecture, including group activity for English reading in order to learn SDGs and productive activities such as speech and project planning for SDGs and considers its effect on students' understanding of SDGs and their learning attitude to English lessons based on a review of their comments.

Correspondence to : Ai NAGAKI

Comprehensive Education Center
Faculty of Health and Welfare Services Administration
Kawasaki University of Medical Welfare
288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan
E-mail : ainagaki@mw.kawasaki-m.ac.jp
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.32, No.1, 2022 297 – 305)